

	課題分析	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・話すことに対する意欲はあるが、人の考えを聞いたり、自分の考えを相手に伝わるように話したりすることに課題がある。 ・字形が崩れる児童や助詞を正しく使えない児童がいる。 ・文章問題を正しく立式できない児童や計算に時間がかかる児童がいる。 ・タブレット PC を使い始めたばかりのため、タブレット PC の用意やログインに時間がかかる。様々な機能の知識や経験を積んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き方のきまりや話型を提示し、対話活動の流れを身に付けさせる。少人数での対話から練習を行う。音読練習を通して語彙力や文章力を高めるとともに、自信をもって声を出せるようにする。 ・学校での様々な経験を通じて、自分の思いや考えを表現できるよう指導するとともに、家庭学習として日記を行い、助詞を正しく使って出来事や自分の気持ちを書けるように継続して指導をしていく。 ・問題場面を理解できるように、キーワードに線を引かせたり、具体物を用いたり、図にかかせたりする。また、計算カードやタブレット PC を用いて繰り返し練習させる。 ・校内のプログラミング計画を基に、学習活動の中で計画的にタブレット PC を活用し慣れさせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを相手に伝わるように話したり、相手の発表を聞いて反応したりすることが難しい。 ・学習の流れ（児童の思考の流れ）を整理しながらノートを書いていくことが難しいため、学年で指導の方法を検討し工夫する必要がある。 ・タブレット PC については、ほとんどの児童が文字を入力するときにキーボード入力ができないことによって、学習への活用できる場面が限られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話型を提示し、対話活動の流れを身に付けさせる。共通点や相違点等、児童が注目すべき観点を示す。 ・学習の流れに沿ったノートの書き方を学年共通で指導し、児童がすすんで取り組めるようにする。 ・キーボード入力が少しずつできるよう、ローマ字について計画的に学習するとともにタイピング入力練習ソフトによる繰り返しの練習を行う。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアや少人数グループで自分の考えを伝え合う活動を積極的に取り入れた結果、学習に意欲的に取り組める児童が増えた。考えの交流を通して、自分の考えを広げたり、よりよい考えを創り出したりすることができるようにしていきたい。 ・漢字や計算などの基礎的な学力が身に付いていない児童がいる。また、語彙が少なく、文章を正確に理解したり、自分の考えをうまく伝えたりできていない様子も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を聞く際に、共通点や相違点等、注目すべき点を具体的に示し、理解を深められるようにする。 ・児童が自主的に活動へ参加し、成功体験を重ねていけるように、係活動や学校行事への取組を活用していく。 ・算数においては学力向上支援講師と連携し、個別に時間をとったり課題を用意したりして学習の機会を保障する。また、家庭学習を活用して児童自身が興味のある学習に取り組めるようにするとともに、基礎学力の向上も目指す。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教科で学習意欲が高く、主体的に取り組んでいるが、全体に向けての発表や話し合い活動に苦手意識をもつ児童が多い。 ・漢字や計算など既習事項が身に付いていない児童がおり、学力に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝や帰りの会に、全体の前で簡単なスピーチをしたり、ペアやグループでの話し合い活動を取り入れたりして、自分の考えを伝える機会を多くもつ。 ・算数では学力向上支援講師と連携し、個別に指導

	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に意欲的な児童が多いが、単元によっては苦手意識をもっている児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> したり、タブレット PC のドリルパークを活用したりして、個別最適な学習の時間を多くもつ。 ・単元の中では、学習する運動の前に関連する動きにも取り組み、様々な運動経験を得られるようにしていく。スモールステップでできるように単元計画を工夫する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・九九や小数点の理解が定着していない児童がおり、計算力の個人差がとても大きい。 ・文章問題で問われていることを正しく読み取ることや、数量関係を捉えて数直線に表したり立式したりすることに難しさを感じている児童が多い。 ・自分の考えを書き表し、発表したり、友達の考えを聞いて理解を深めたりしている児童が多い。一方で答えは分かっても、どのように考えたのか、その過程を書けない児童がいたり、書くこと自体に苦手意識をもつ児童がいたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟の時間に個別指導ができるようにする。自力解決で進められる児童は自分のペースで取り組めるようにし、支援が必要な児童には個別に丁寧に対応していく。 ・分かっていることや問われていることを整理して、数直線が書けるように繰り返し指導する。文章から読み取ったことを図や半具体物で示し、視覚的に理解できるようにする。 ・自分の考えを整理して書けている児童のノートを紹介して、考え方の良い所を見付けて共有する。友達との関わりを通して、自分の考えを他者に伝えることで学習内容の理解をより深めていく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・教科に関係なく学習に意欲的な児童が多いが、関わりが苦手な児童や、書くことが苦手な児童がいる。 ・既習事項が定着しておらず、自力解決が難しい児童がいる。 ・学習課題の意図が読み取れず、問いの意味が理解できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入を工夫し主体的な学習ができるようにしていく。 ・ペアやグループでの活動を取り入れ、様々な友達と関わる場を設定していく。 ・授業のはじめや終わりなどで既習事項を振り返る時間を設定する。 ・学習課題において、文章を読み解いて分かっていること、設問の意図を常に確認して線を引ながら課題解決ができるようにする。
専科	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもって取り組んでいるが、自分の思いや考えに自信をもてない児童がいる。 ・全体の発表に苦手意識をもったり、受け身になって聞くだけになったりする児童がいる。 ・友達の考えを自分の課題解決に生かしたり、既習の知識を結び付けて考えたりすることに課題がある児童がいるため、手だてが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてや学習課題を明確、簡潔に示し、学習の見通しをもたせる。ワークシートを活用し、ふりかえりながら目標をもって計画的に学習が行えるようにする。 ・ペアやグループでの話し合いや伝え合いの機会を取り入る。何について話し合うのか、視点をもって話し合えるようにする。 ・導入や振り返りを充実させ、既習の知識同士を結び付けて考える場面を設定する。学習に合わせて、タブレット PC で調べたり、動画を活用したりして視覚的にも理解を深めていけるようにする。